

令和6年度 兵庫県立農業大学校評価シート

〔教育目標〕 国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等、変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。	〔重点目標〕 I 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保 II 実践的教育の充実・強化による学生の資質向上 III 就農率の向上に向けた学生指導の充実	〔達成度の基準〕 A 目標を上回っている B 目標どおりに進捗している C 目標を下回っている
---	--	---

I 重点目標：次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現 状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	今後の取り組み・課題と改善策	学校評議会委員の意見	達成度												
1 定員 40 名に対し直近2年間の競争率は1.2 倍。近年、大学は選ばなければ誰でも入学できる状況にあり、今後、専修学校である本校では、定員の確保がさらに厳しくなると予測される。 (入試受験者 R5：50 名、R6：48 名)	高校・関係機関等との連携協力	1 以下により高校の進路指導担当者等へ大学校の情報を提供 ① 農業高校：県内は、高等学校教育研究会農林水産部会などを通じて。また、県外は隣接府県高校へのガイダンスを通じて。 ② 普通科高校等：高校進路指導研究会（以下「進指研」）を通じて。 2 農高生のつどい等の場で農大生が高校生へ魅力を伝達 3 農業高校教員と農大教職員との交流推進 【評価指標】 1 大学校情報の提供 ① 県内外の農業高校への説明：10 校 ② 進指研での説明（4 地域） 2 高校出身者を引率しての大会参加 3 教職員交流の実施	1 高校の進路指導担当者等へ大学校の情報を提供 ① 農業系高校：新たに篠山東雲、篠山産業へも情報提供した。 ② 普通科高校等：進指研では、新たに北播, 但馬, 丹有支部に参加。阪神支部で支部出身の学生からプレゼンを実施。また進路ガイダンスは、要望のあった高校へ参加。 【実績】 1 大学校情報の提供 ① 農業高校等への説明（進路ガイダンス）：12校20回（県農4回、播磨農高4回、篠山東雲2回、大阪府立園芸2回、但馬農高、氷上、氷上西、篠山産業、錦城、西宮甲山、三木北、私立神港学園） ② 進指研で説明：6支部（但馬、丹有、神戸、東播・北播、阪神、約140高校の進路指導者が参加） 2 農高生のつどいに参加：11/14 3 県立総合教育センターと連携して農業技術習得研修を実施：8/9、4校(11名)参加 ＊ 入試結果（合格者数／受験者数）：44名/51名、受験者数が定員を上回った。	1 受験生に選んでもらえる大学校となるために、大学校の情報を発信 (1)高校の進路指導担当者への情報発信 ア 農業高校：高等学校教育研究会農林水産部会などを通じて イ 普通科高校等：進指研を通じて ウ 映像を活用した情報の提供 (2)生徒への情報発信 例年の開催校のほか、新規要望高校の進路ガイダンスに積極的に出席（隣接府県を含む）	地元（北播地域）での知名度の向上	A												
2 入学者は 36.6 名で定員充足率は 91.5%。(R2～6 年度平均)	大学校のPR	1 進指研を通じた普通科高校等への進路ガイダンスを強化 2 農業大学校の特色が、より理解しやすいため、映像等を活用したPR 3 収穫祭での入試相談コーナーの設置 【評価指標】 1-1 進指研での説明・PR（再掲） 1-2 県内外の進路ガイダンス（延べ15 校） 3 収穫祭で受験相談コーナーの設置（新規）	1 進指研では新たに北播、但馬、丹有支部で進路ガイダンスを実施【再掲】 2 進指研、進路ガイダンス、オープンキャンパスでは、生徒、進路担当者、保護者に対してHPに掲載の学校紹介映像を用いて特色をPRした。 3 新たに収穫祭で入試相談コーナーを設置して、受験希望者、保護者の相談に応じた(11/16・17:13名(うち生徒5名))。 【実績】 1ー1 進指研での説明・PR：6地域（再掲） 1ー2 進路ガイダンス：延べ20校（再掲） 2 進指研、進路ガイダンス、オープンキャンパス、入試相談コーナーの設置【再掲】	1 受験生に選んでもらえる大学校となるため、大学校の魅力をPR (1) 農大の特色のPR 特色: 実践学習、資格取得、農家等派遣実習、インターンシップ、4年生大学編入、就職状況、経費 (2) 進指研、進路ガイダンス、オープンキャンパス、収穫祭等で映像を活用した魅力の発信 (3) 収穫祭での入試相談コーナー	収穫祭や進路ガイダンス等で有名なOB・OGを紹介	B												
3 農業高校からの入学者は62.8%、実数23.0 名。(R2～6 年度平均)	ホームページによる情報発信の強化	1 学生によるトピックス・農大情報の積極的な発信 2 タイムリーな入試情報等の発信 【評価指標】 1・2 トピックス発信、卒業生の就職状況、過去の問題等の掲載（50 回以上）	1 学生によるトピックスでの情報発信【実績（3月末）】 ＊トピックスを116件発信、うち学生によるものは99件 <table><tr><td>月</td><td>4-6</td><td>7-9</td><td>10-12</td><td>1-3</td><td>計</td></tr><tr><td>件数</td><td>20</td><td>25</td><td>17</td><td>37</td><td>99</td></tr></table> 2 お知らせ他【実績】：トピックスのほか卒業生の就職状況、過去の問題等を掲載	月	4-6	7-9	10-12	1-3	計	件数	20	25	17	37	99	1 トピックス・お知らせ等でのタイムリーな情報の提供 2 学生による情報発信	Instagram等による情報発信の検討	B
月	4-6	7-9	10-12	1-3	計													
件数	20	25	17	37	99													
4 推薦入試による入学者実数は 24.8 名で67.8%。(R2～6 年度平均)	オープンキャンパス等でのPR	1 オープンキャンパスを3回開催(8 月:2回、3 月＊:1 回、 ＊R8 年度入学予定者を対象) 2 個別見学の受け入れ 3 農業系高校の学年単位での見学受け入れ 【評価指標】 1 オープンキャンパス参加者：定員 95%以上 2 個別見学の受け入れ：適宜 3 農業系学校の学年単位での見学受け入れ：適宜	【実績】 1 オープンキャンパス3回開催：8 月2 回、3 月1 回、97 名、定員(110 名)の88% 2 個別見学：7 回、12 名(学生7 名) 3 農業系高校1 学年の見学：3 校、122 名参加	1 オープンキャンパス3 回開催(8 月2 回、3 月) 2 見学受け入れ (1) 農業系高校（1・2 年対象、学科単位） (2) 個別（適宜）	特になし	A												
5 オープンキャンパス参加者は 80.6 名（R2～5 年度平均、募集人員：R3 のみコロナで 60 名に制限。その他は 80 名）																		

Ⅱ 重点目標：実践的教育の充実・強化による学生の資質向上

現 状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	今後の取り組み・課題と改善策	学校評議会委員の意見	達成度																																																																					
1 講義に対して実習時間が1.4倍と実践的教育を重視	知識・技術に関するカリキュラムの強化	1 学生参画のもと専攻実習に関する目標や活動計画づくりとその実践 2 企業等との相互交流の促進 【評価指標】 1 学生参画のもとでの専攻実習の体制づくりとその実践 2 企業等との交流の場の開催	1 専攻部長のほか、知識や技術の習熟度の高い者を取りまとめ役・指示役として専攻実習を行った。作業の共有化は概ね実践できたが、学習意欲に差がみられたほか、習熟度の低い学生では、十分な作業計画が立てられず作業の遅れが見られた。 2 1年生を対象に農業者やJAグループ兵庫との交流を通じて、農業の現状や魅力を紹介し、将来の新規就農へ導くことを目的に就農講座を実施した。	1 専攻実習の取組姿勢の向上と習熟度の低い学生への支援 (1) 各品目・畜種担当を決め、担当を指示役とした専攻実習を実践。また、各品目・畜種の進捗状況をミーティング等で職員と学生が共有。 (2) 習熟度の低い学生の作業進捗状況により、複数で実践。	特になし	A																																																																					
3 資格取得を推進しているが、合格率の低い資格がある 農業機械士：R5 合格率23% 日本農業技術検定2・3級：R5 合格率51%		資格取得の促進	1 進路を見据えた資格取得の奨励 2 農業機械士及び日本農業技術検定2級の合格率向上に向けた継続的な支援 【評価指標】 1 特に取得推進する資格 ①大型特殊免許（農耕用）：全員 ②農業機械士：合格率40% 2 日本農業技術検定2・3級：合格率60%	<table><tr><th>資格・免許の種類</th><th>受験(受講)者</th><th>取得(合格)者</th><th>合格率</th><th>備考(全体取得状況)</th></tr><tr><td>大型特殊自動車（農耕用限定）運転免許</td><td>36</td><td>36</td><td>100%</td><td>2年生100%</td></tr><tr><td>刈り払い機取り扱い作業者安全衛生教育</td><td>32</td><td>32</td><td>100%</td><td>1年生100%</td></tr><tr><td>小型車両系建機特別教育</td><td>11</td><td>11</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>家畜人工授精師養成講習会</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>隔年開催</td></tr><tr><td>指導農業機械士</td><td>8</td><td>3</td><td>38%</td><td></td></tr><tr><td>農業機械士</td><td>58</td><td>26</td><td>45%</td><td></td></tr><tr><td>危険物取扱者</td><td>受験者なし</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>フォークリフト</td><td>28</td><td>28</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>アーク溶接</td><td>11</td><td>11</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>ガス溶接</td><td>12</td><td>12</td><td>100%</td><td></td></tr><tr><td>日本農業技術検定1級</td><td>3</td><td>0</td><td>0%</td><td></td></tr><tr><td>日本農業技術検定2級</td><td>33</td><td>10</td><td>30%</td><td rowspan="2">日本農業技術検定2級・3級合格率：50%</td></tr><tr><td>日本農業技術検定3級</td><td>23</td><td>18</td><td>78%</td></tr></table>	資格・免許の種類		受験(受講)者	取得(合格)者	合格率	備考(全体取得状況)	大型特殊自動車（農耕用限定）運転免許	36	36	100%	2年生100%	刈り払い機取り扱い作業者安全衛生教育	32	32	100%	1年生100%	小型車両系建機特別教育	11	11	100%		家畜人工授精師養成講習会	－	－	－	隔年開催	指導農業機械士	8	3	38%		農業機械士	58	26	45%		危険物取扱者	受験者なし	－	－		フォークリフト	28	28	100%		アーク溶接	11	11	100%		ガス溶接	12	12	100%		日本農業技術検定1級	3	0	0%		日本農業技術検定2級	33	10	30%	日本農業技術検定2級・3級合格率：50%	日本農業技術検定3級	23	18	78%	1 日本農業技術検定(2級・3級)合格率の向上にむけた支援を継続
資格・免許の種類	受験(受講)者	取得(合格)者	合格率	備考(全体取得状況)																																																																							
大型特殊自動車（農耕用限定）運転免許	36	36	100%	2年生100%																																																																							
刈り払い機取り扱い作業者安全衛生教育	32	32	100%	1年生100%																																																																							
小型車両系建機特別教育	11	11	100%																																																																								
家畜人工授精師養成講習会	－	－	－	隔年開催																																																																							
指導農業機械士	8	3	38%																																																																								
農業機械士	58	26	45%																																																																								
危険物取扱者	受験者なし	－	－																																																																								
フォークリフト	28	28	100%																																																																								
アーク溶接	11	11	100%																																																																								
ガス溶接	12	12	100%																																																																								
日本農業技術検定1級	3	0	0%																																																																								
日本農業技術検定2級	33	10	30%	日本農業技術検定2級・3級合格率：50%																																																																							
日本農業技術検定3級	23	18	78%																																																																								
4 スマート農業の教育強化のため、環境制御装置、GPS付農機具、畜産遠隔管理装置等を導入	スマート農業に関するカリキュラム拡充	1 カーネーション以外の品目でもEOD暖房技術を習得 2 リアルタイム環境モニタリングを活用したイチゴやトマトの生育技術の習得 3 牛の繁殖等に関するセンサーによるデータ管理の習得 4 ドローンパイロット資格取得に向けた知識・技術の習得 【評価指標】 1～4 データの収集・活用による生産管理技術の習得促進	1 実習の中でトルコギキョウのEOD暖房に取り組み、効果的な温度管理技術を習得させている。 2 いちご及びトマトの温度、湿度、風速等の環境状況をパソコンでモニタリングし、結果に基づく生育管理技術を習得させている。また、座学でも環境状況をリアルタイムで確認し理解を深めた。 3 人が入力する牛の個体情報と牛の首に装着したセンサーから得られる行動データを人工知能(AI)が分析し、牛の状態(発情、活動低下等)をスマートフォンに通知するシステムを導入している。このシステムの利活用方法を習得し、分娩前後の事故防止のほか、牛の健康や繁殖等適切な飼養管理に努めた。 4 作物専攻2年生の卒業論文の課題にドローンを用いた水稻栽培管理を取り入れ、担当した学生だけでなく専攻全体でより実践的な技術、知識を学ぶ場とした。	1 トルコギキョウ以外の品目でもEOD暖房技術を習得 2 苗テラスを活用した果菜類(トマト等)や葉菜類(キャベツ、ブロッコリー等)の育苗技術を習得 3 人工知能(AI)による牛の繁殖等飼養管理システムの習得 4 ドローン以外のスマート農業機器の活用に向けた知識・技術の習得	特になし	A																																																																					
5 学生自治会が主体となり、収穫祭を開催。また、管内の全農業大学校が参加する東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会へ参加。		学生の主体性・規律性の向上	1 学生自治会主による収穫祭の運営と開催日当日の対応ノウハウの確立 2 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会での他農業大学校生との積極的な交流 3 学生自治会主体とした規律ある寄宿舎生活の実践 【評価指標】 1 学生自治会主体による収穫祭、県民農林漁業祭等での企画・活動の実践 2 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会での積極的な交流 3 規律ある生活実践で感染症等の集団発生を予防	1 学校行事は、学生自治会が主体となって企画・運営を行った。収穫祭では初日の準備や駐車誘導でやや混乱が見られたものの、約1,800名が来場(卒業生、一般)し、農業の輪が広がった。 2 滋賀県で開催された東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会では、優秀な成績を収めた。また、他府県の農大生との交流が図られ、学生にとって思い出深い大会となった。 3 年末年始の全国的なインフルエンザの流行時には、校内でも多くの学生が発症した。症状の見られた学生には、早期の受診を勧めインフルエンザと診断された場合は、寮と異なる施設(研修棟)や自宅での療養等により感染拡大防止を図った。	1 学生自治会主体による収穫祭開催に向けた十分な準備、反省点への対応 2 学生スポーツ大会等での他府県農大生との積極的な交流 3 学生自治会主体とした規律ある寄宿舎生活の実践		特になし	A																																																																			

Ⅲ 重点目標：就農率の向上に向けた学生指導の充実

現 状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議会委員の意見	達成度
1 農家出身学生は21% (R2～6 年度平均)	学生個々の意向把握及び就農活動支援	1 個別の進路意向の把握及び進路決定後の継続的支援 2 雇用就農先とのマッチング支援 3 施策・制度資金等を活用した就農活動支援 【評価指標】 1・2 就農率目標：50%、進路決定率：100% 3 就農準備資金の活用	1 個人面談(5月)での意向確認、その後インターンシップ支援、情報提供等を実施。 2 丹波篠山市内の農場やインターシップ事業を活用して10名のマッチングを支援。 3 進路内定者36/37(97%)、就農予定者15/37(40.5%、うち親元就農2)、県内JA等8、進学1、未定1。 4 就農準備資金は2年生2名が継続して受給している。この2名には就農意思を確認し、普及センターと連携して計画的に就農支援した。 なお、1年生にも準備資金の活用を周知したが、受給には至ってはいない。	1 学生の意向把握と早期のマッチング支援 2 就農準備資金対象者の懸案支援 就農状況報告書(年2回)で確認し、農業改良普及センターと連携して課題解決につなげる	特になし	A
2 農業法人等への雇用就農は34%、自営就農とあわせた就農率は42% (H31～R5 年度平均)		1 円滑な派遣実習実施のための知識、技術の醸成 2 学生と受入れ農家のマッチング実施 【評価指標】 1・2 農家等派遣実習単位取得：1年生全員	1 1年生対象の農家派遣実習は、全員が40日間実施した(8/30～10/8)。 2(1) 普及センターを介して調査した受け入れ農家の条件と学生の意向をマッチングした。 (2) 受け入れ農家や普及センター等も参加した派遣実習報告会を開催し、学生が学習成果等についてパワーポイントを用いてプレゼンした(10/23)。	1 40日間の実習を踏まえた各自の知識・技術の向上と就農率の向上	特になし	
3 東海近畿ブロック農業大学校平均就農率50.9%に比べると低い(H30～R4 年度平均)	インターンシップ等による雇用就農支援	1 農業法人説明会等への積極的な参加 2 雇用就農先とのマッチング促進 3 インターンシップ等への参加を促進 【評価指標】 1 農業法人説明会等への参加：2回 2 インターンシップ実施学生 R5:9名→R6:10名 3 同窓会と連携したインターンシップ支援制度の活用	1 農業法人の仕事説明会へ参加(2回、26名)。 2 丹波篠山市の農業でマッチング支援2名。 3 インターンシップの実施 (1) 5名が(公社)ひょうご農林機構の「ひょうごの農トライアル事業」を活用。 (2) 2名が国の農業教育高度化事業を活用。 (3) 1名が西脇市の農業インターンシップ事業及び農大創立100周年記念基金事業を活用。	1 農家等派遣実習のほか現場実習の機会を実践するため、インターシップを推進 2 各種事業を活用したインターシップの実施	特になし	A
4 JA、農業関連産業(農機具、種苗等)等をあわせた農業に関わる進路選択者は92.3%(H31～R5 年度平均)	就農意欲を向上させるカリキュラムの充実	1 農業参入企業等との連携によるカリキュラム実施 2 雇用就農者や雇用就農後に独立した農業者の事例研究 【評価指標】 1 農業法人での校外学習、県下市町が実施する就農支援事業への参加 2 「現代実践農業」、「農政時事」等での農業者による講演	1 参入企業：イオンアグリ創造(株)社長の講演と生産工程管理を校外学習で実施。 2(1) 「農政時事」で農業者やJAの先進事例などを学ぶ。 (2) 県内の若手農業者(農業青年クラブ)と学生が集い、専門分野に分かれて情報や意見を交換(7/3)。 (3) 姫路市内の先進的な農業経営4施設を訪問し、取り組み状況の見学と意見交換(12/12)。 (4) 「現代実践農業」では、法人代表やOBなど6名の農業者から実践事例を聴講。 (5) 校外学習・実習で篤農家等を訪問し実践事例を聴講(14回)。	1 カリキュラムの充実	1 卒業後2～3年程度の先輩による事例発表 2 営管理能力向上ためのカリキュラムの充実	
5 農業・農村への早期理解促進のため、40日間の農家等派遣実習を1学年で実施 (但しR3年度は、緊急事態宣言で17日間に短縮)	既卒者へのフォローアップ	1 JA等の指導機関就職者の現状確認及び就農の意向を把握 2 就農志向者等を対象とする支援の検討 3 カリキュラムに対する意見聴取 【評価指標】 1 現状調査の実施 2 就農志向者のニーズ把握及び支援策を検討 3 アンケー意見のカリキュラムへの反映を検討	1 卒業時に県内JA等の指導機関へ就職した既卒者を対象に、調査時点での現状確認、今後の意向、カリキュラムへの要望等調査をR4・6*年度に実施した。(*6年度は収穫祭の同窓会行事「卒業10年目の集い」でも調査)この2年間の調査結果は、以下のとおり。 (1) H26～R3年度卒で連絡先が判明している58名が対象。そのうち39名の状況を確認(67%)。 (2) 勤務継続は24名(62%)。担当業務は農業生産関連17名(71%)信用2名(8%)保険1名(4%)コングライアンス1名(4%)不明3名(13%)。また就農希望は2名(8%)。 (3) 退職は15名(38%)で農業生産・指導分野に転職が5名(親元就農1名含む)。 (4) カリキュラムでは、資格取得機会の多さが役立っているとの意見が多い。また、充実すべき事項として農業簿記、確定申告など指導者らしい意見があった。 (5) 寮生活で一人暮らしに必要な自立や協調性を高められた等の意見があった。 2 調査結果は、学生等へ情報提供する。また意見は、カリキュラムへの反映を検討していく。	1 卒業10年目の集いで、現状確認、カリキュラムへの要望等調査を実施 2 カリキュラムの充実	特になし	A
6 就農や指導機関へ就職した卒業生の動向把握が不十分						